生計復興津波被災漁業集落における漁家生計

- マイクロファイナンスと所得創出活動 -

広島大学 ポンプラパ・サクンセン

広島大学 山尾 政博

要 約

アンダマン海岸沿いの漁業集落は、2004年に発生したスマトラ沖地震・インド洋津波により大きな被害を受けた。それらの人々の生活を再建するためには、地域経済の復興が一番の課題となる。そこで、本研究は、津波被災地における復興プログラムの中でも、マイクロファイナンスと所得創出活動に注目して、生計復興活動の状況を明らかにするのを目的としている。調査地は、タイのクラビ県の二つの地区である。一つ目は、村落単位での回転資金事業とカヌー観光業を実施しているカオトン地区であり、二つ目は、パティック製作や地域密着型店舗を開いている女性グループのあるアオルークノイ地区である。研究結果により、被災地域における復興事業は人々に前向きな影響を与えていることがあきらかになった。回転資金事業は、収入源を多様化することにより、人々の財政的な脆弱性を軽減するのに役立っている。また、所得創出活動は、人々の家計支出を補充する補足的収入の創出に貢献している。これらの復興プログラムに参加している人々の生計復興を再建し、地域経済を復興させて地域コミュニティを強化するのに役だっている。

キーワード: 生計復興, 津波回復, 漁業集落, マイクロファイナンス, 収入創出活動